

7

35

(M)

東 京 圖 書 館

八	三	一	七		
冊	五	架	函	屬	類

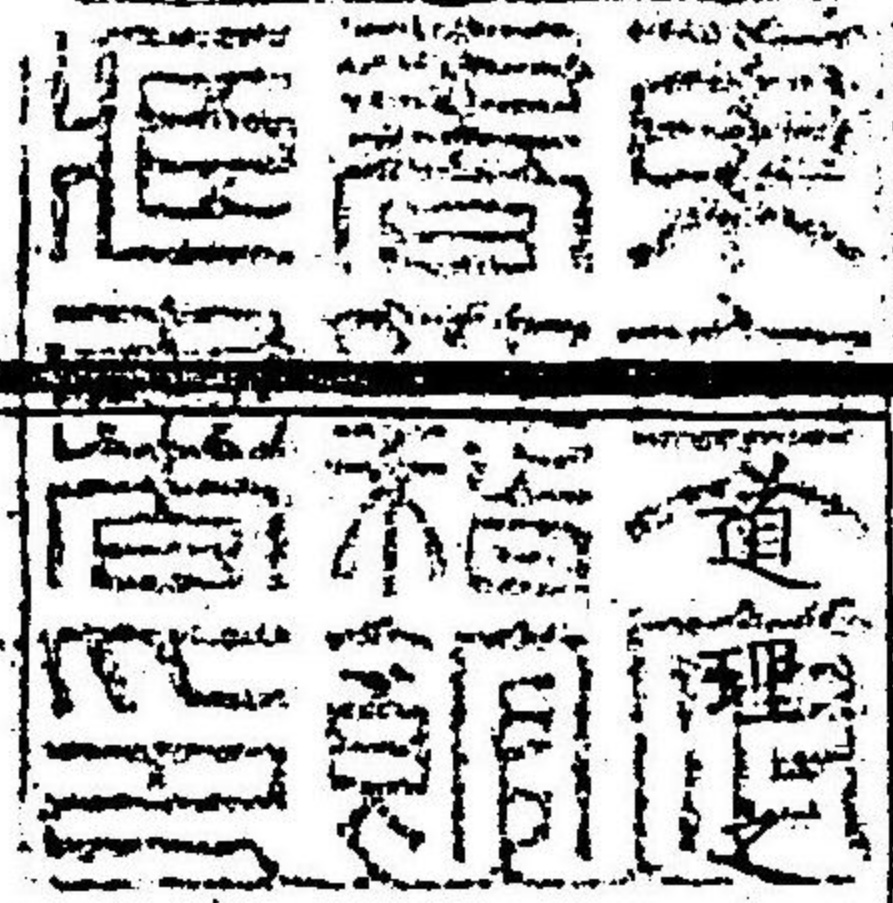
二二二

深田内是譯述
千回身貫二校山

道理之世

五

17-35



世卷五

○中編

○新約書之總論

耶蘇宗徒ノ言ニ從ハ、新約全書ハ舊約全書ノ
預言ニ根柢セシ者ナリ果ソ然ラハ基本已ニ正
シカラズ枝葉豈ニ直カラシヤ而ノ處女懷孕ノ
兒ヲ生ムカ如キハ非常ノ事ニ非ス又其生ム所

深間内 基 譯述

千河岸 貫一 校正

深間内基譯述
千河岸貫一校正

道 理 之 世

擁海樓藏梓

道徳
擁海樓藏梓

ノ兒人ノ為メニ敬セラル、事ハ假令正シキ事
ニアラサルモ亦非常ノ事トスルニ足ラス予馬
利亞及ヒ約瑟基督等ノ人ノ世ニ出シテハ信セ
サルニアラス且其等ノ人ノ世ニ在リシトニ就
テハ信不信ヲ論スヘキ旨趣ナシ而シテ其等ノ事
ハ尋常一樣此ノ如キトモアリシナラントスヘ
キノミ然ラハ則チ何ノ論スヘキアラシヤ然ル
ニ與ヘテ云ヘハ此ノ如キ人ノ世ニ在リシ事實
ヲ其紀傳中ニ示セシ者ハ實ニ似タリ蓋シ其他
ノ造説ハ實事ニ附會シタルナリ例ヘハロピン

ソシ米國ノ神學者ニノチノリツク小説書ノ
七百年代ノ人ナリ
談ノ如シ若シ此評允當ナラストセハ或ハアレ

キサンデル、シルキルタノ説ノ如シハシルキルタ
生レ暴虎憑河ノ勇アリシ人ナリ性航遊ヲ好ノ
ミ顔ル難厄ニ遭ヘリ其生ル、十六百年代ニ在
リ○然レハ則チ予カ論辯ヲ費ス所ハ耶蘇ノ成長

セシト、不トニ關スルニアラス新約全書ニ記シ
タル基督ニ就テ附會セシ小説ト其小説ヨリ起
リシ想像ノ誕漫ナル教義ニ關スルノミ此附會
ノ談ヲ舊約ト照ラセハ其應スルト云者頗ル曖
昧ニシ且神ヲ侮弄スル者ナリ中ニ就テ婚ヲ約

シ、ル慶女馬利亞ノ事ヲ記スルニ神ヲ侮リク
 ル言ヲ口實トセシ者アリ即チ路加傳第一章第
 三十五節ニ曰ク天使曰ク聖神マサニ爾チニ臨
 マント至ス上者ハカマサニ爾チヲ庇ハントス
 ト約瑟ハ之ニモ關セスノ馬利亞ヲ娶テ婦ト為
 シ室ヲ同ニス而メ互ニ競テ天ノ使ヲ受ケシト
 云フ此事ハ作者頗ル巧妙ノ説トスル者ニ似ク
 リ然レハ此ノ如キ事ヲ記スルハ羞ツヘキ者ト
 為サ、ルナリ馬利亞ハ未タ男ト室ヲ同フセキ
 所ノ基督ノ母トスル者ニシテ
 千數人ノ子アリ馬太傳第二十然レ氏其世人ヲ
 二章ノ五十五六兩節ヲ見ヨ

ノ信セシメシトスル事跡ノ太ニ曖昧糺糊ナル
 ハ造説ニノ欺詐ノ印誌ナリ予カ神ヲ信スルハ
 此ノ如ク笑フヘキ談柄ニ屬スル者ト絶縁スル
 フ以テ瑕モ主要ナルトス耶蘇ニ附會セシ談
 話ハヅヤロトル及ヒコト等ノ小説ト種類ヲ同
 フスル者ナリ予カ前ニ於テ論セシカ如ク耶蘇
 宗教ハ「ヘーデン」ノ小説ト一層妄説ヲ附益セ
 シ者ナリ○新約全書ノ史記ニ屬スル部ノ基督
 ニ關係スル者ハ僅ニ二年ヲ出サル時ニシテ同國
 同所ノ事ニ局レリ此書ニ於テハ予カ曾テ舊約

書中ヨリ歴掲セシカ如ク時ト所ト事實ノ符合
セサルヲ證スヘキ謬錯ヲ見出シ難シ然リト雖
氏此書ヲ舊約ニ比較ノ考フルニ此書ハ恰モ劇
ヲ演スルカ如シ中ニ於テ無數ノ綻裂ヲ統合セ
ス又或ハ事ノ鉅指セシ者アリ是預言ヲ口實ト
シタル偽説ヲ除クノ外ト雖氏滿篇所載ノ基督
ノ事ニ就テハ斷トノ詐偽ニノ齟齬セシ者ナリ
トスルニ足レリ予第一ニ假令其説前後相符合
スル氏必ス眞實ナリト信スヘキ者ニテトスト
ス蓋シ其説ノミヲ符合セシメントスルモ為シ

難キ事ニアラス其説全ク虚誕ナルモ前後相符
合セシムルヲ得ヘキカ故トリ第二ニ説ノ前
後符合セサル者ハ是固ヨリ其全説眞實ナリト
スルヲ得サルノ證ナリ然ラハ則チ其説ノ符合
スル者スラ尚ホ其眞實ナルヲ證スルニ足ラス
況ヤ相乖角スル者ニ於テオヤ是其虚誕ナルヲ
ヲ自ラ證スル者ナリト謂フヘシ○基督ノ史傳
ハ馬太馬可路加及ヒ約翰ニ就テ記載セシ四傳
中ニ詳悉ス馬太傳ノ第一章ニハ基督ノ族譜ヲ
記ス路加傳ノ第三章ニ亦耶蘇ノ族譜ヲ記セリ

此二傳ニ載スル所ノ族譜ハ假令相符合スルル
 之ヲ實事ナリト證スルヲ得ス何トナレハ其
 族譜ヲハ偽造スルヲ得ハキ者ナレハナリ然
 ルヲ況ト其二書ニ載スル所互ニ齟齬スルニ
 於テオヤ故ニ知ル其族譜ハ全ク偽作ナルヲ徵
 スルニ足ルヲ若シ馬太傳ノ記スル所ハ實ニ
 ノ路加傳ノ載スル所ハ虚ナルカ或ハ路加ノ傳
 フル所ハ真ニソ馬太ノ筆スル所ハ妄ナルヤ一
 ヲ執テ信マントスルモ他ニ比ノ殊ニ信スヘキ
 介量ノケレハ孰レヲ取り孰レヲ捨テ到底ニ

傳ノ所載共ニ以テ信スヘキ介量ナキ者トナリ
 了ハル殊ニ此族譜ハ二傳共ニ其卷端ニ舉クル
 者ナリ然ルヲ早ク己ニ其信シ難キヲ見ルハ
 滿篇ノ所説スヘテ信スベキ者ナリト許スヲ
 得ス夫真理ハ一而已神ノ嚙示ヲ口實トシ我輩
 ヲノ信從セシメントセハ我レ之ニ反シ此ノ如
 キ事ハアルヘキ理ナシト云ハサルヲ得不然ル
 キハ十二使徒ト稱スル者ハ欺誑者ナリ而シ其
 人ノ録レタリトスル書ハ皆後人ノ偽作ニシ舊
 約ニ於ケルカ如ク只其名ヲ假托セシ者ナルヲ

疑ヒテ容レス ○馬太傳ノ第一章第六節已下ノ
 大關ヨリ馬利亞ノ夫ナル約瑟ヨリ基督ニ至ル
 マテノ系譜ヲ載セテ二十八世トス又路加傳第
 三章第二十三節已下ニハ初メニ基督次キニ馬
 利亞ノ夫約瑟ヨリ漸次ニ溯テ大關ニ至ルマテ
 四十三世トス而シテ其ニ傳載スル所ノ人名相同
 シキ者ハ大關ト約瑟ノミ予左ニ二傳記スル所
 ノ名字ヲ掲ケテ比較マン為シニ大關ヨリ約瑟
 ニ至ル迄ヲ列記ス

馬太傳第一章所載耶蘇基督族譜

基督	約瑟	雅各	馬坦
以利亞撒	以律	亞金	撒鐸
亞所	以利亞金	亞比鬱	所羅把伯
撒拉鐵	耶哥尼亞	約西亞	亞門
馬拿西	希西家	亞哈士	約坦
烏西亞	約蘭	約沙法	亞撒
亞比亞	羅破暗	所羅門	大關

路加傳第三章所載耶蘇基督族譜

基督	約瑟	希里	馬塔
利未	麥基	雅拿	約瑟

馬大提亞

亞摩士

拿翁

以士里

拿該

馬押

馬大提亞

西美

約瑟

猶大

約亞拿

利撒

所羅把伯

撒拉鐵

尼利

麥基

亞底

哥來

以摩堂

耳

約細

以列撒

約令

馬塔

利未

西面

猶大

約瑟

約南

以利亞金

米利亞

買南

馬達他

拿單

大關

大關ノ生レシヨリ而シテ基督ノ生ルニ至ル其間ソ

此馬太傳ノ從生レトシハニ十七世ヲ經故ニ初メ
於ケル各世ノ中等數ヲ取テ其平均ノ年齒ヲ知
要ス而ソ一十ハ古今大ニ異ナルヲケレハ年
與フ人ノ一十ハ古今大ニ異ナルヲケレハ年
十七相嗣シ又若シ我輩カ大關ノ嗣王所羅門
人ナキ理ナシ又若シ我輩カ大關ノ嗣王所羅門
ノ未タ世一歲ニ充タスノ多ク妻ヲ娶ハシ
ノ記應スレハ愈老テ後チ妻ヲ娶リ兒ヲ舉ケシ
人ノ此ナリト想像シガタシ此族譜ハ實ニ遠キ
ノ如クニソリト想ハシガタシ此族譜ハ實ニ遠キ
路加傳一ニル所ハ尚ホ當ル
此馬太及ヒ路加共ニ基督ノ史傳ノ卷端ニ於テ
既ニ偽妄ヲ記載スルトキハ爾後列記スル所ノ
奇怪ナル事實ニ於テ一モ信スヘキ價直ナシ若

シ基督ノ族譜ヲ記スル所ヲ信スルヲ得サルト
キハ彼レハ聖靈ニ感ソ生ミタル神子ニツ天使
密カニ此事ヲ其母ニ告ケタリト云フ後人ニ
示セズ我輩何ソ此ヲ信ヤンヤ彼ノ馬太路加ノ
二人ハ其一ノ馬太傳ノ族譜ニ於テ己ニ偽ルル
ハ路加傳ノ族譜亦何ソ信スルニ足ラン若シ其
族譜造説ニ歸スレハ天神ノ系譜タル全冊ノ福
音モ亦造説ニ歸スルヲ知ルヘシ人豈有識明察
者ノ穩當適實ナル思想ニ反對ソ既ニ偽造ナル
ヲ發覺セラレタル書中ニ記載スル所ノ道理

上ニ於テ決ソ為スヘカラサル怪説ヲ信シ一身
ノ幸福ヲ損滅スルヲラセンヤ我輩ノ真ニ遠ク
ノ理ニ契ハス適切ナラスソ乖謬スル者歴々指
摘スヘキ迄洋タル詭談ヲ容レサルハ謂フヘシ
危害ヲ避クルノ妙案安寧ヲ保ツノ良策ナリト
○然ルニ新約全書ニ就テハ舊約ト同ク最初ノ
疑問ハ其書ノ正不ニ在リ此書ハ後人カ耶蘇ノ
門徒ノ名ニ托ソ偽造セシ者ナルヲ書中ニ載ス
ル所ノ奇怪ナル事實ノ信セラレサルニ由ル今
此事ヲ決スル為メニ直クニ提擲スヘキ確證ヲ

シ亦此書中屢其記スル所ノ事實ヲ證スル所ノ
 證ハスヘテ疑フヘキ者ノミ夫疑ハ信ノ反ナリ
 故ニ書中ノ体裁ニ於テ此疑フヘキ證ヲ以テ證
 セシ類ハ盡ク其事實ヲ以テ人ヲ信セシメン
 トスル所ノ作者ノ素心ト背馳ニ其事實ノ信ス
 ハカラサルヲ證スルニ足レリ○然リト雖凡
 此事ヲ除テ猶ホ其四福音傳ハ予其名ヲ題セシ
 四人ノ門徒ノ録セシ者ニアラサルヲ信ス何ト
 ナレハ此四傳中史記ノ不順序ナル景狀ト又一
 ノ傳ニ記スル事實ハ他ノ傳ニ於テハ關クル等

ノ一ヲ四傳ニ於テ見出シ得ハ其相符合セサル
 者ハ後人各自ノ意想ニ任セテ造設シタル書ナ
 ル痕跡ヲ見ハス方サニ知シ又其書盡ク其誕偽
 説ナルヲ而シテ四人ノ門徒ヲ四傳ノ撰者ナリ
 ト云フ口實トシ實ハ多クノ年ヲ歷テ後チ各自
 ラ昔時ノ談話ヲ録セシナリ全ク親リ耶蘇ニ昵
 近セシ人ノ筆セシ者ニアラサルヘシ到底此等
 ノ書ハ猶ホ舊約全書ニ於ケルカ如ク名ヲ題シ
 タル人ノ著スル所ニアラスノ無名ノ偽作者ノ
 手ニ成リシ者ナリ○神使ノ告ケテ受ル談ハ馬

太路加ノ二傳ニ於テハ馬可ト約翰ノ二傳ノ如ク多ホカラスノ其記スル所亦自ラ異ナリ馬太傳第一章第二節ニ神使約瑟ニ顯現セシト云フ路加傳二章第九節ハ馬利亞カ嘿識セシト云フ第二章第十節然ルニ是ノ事ハ人ヲソ約瑟ト馬利亞ノ人タルヲ想像セシムル中ニ於テ寂モ惡キ證ナリ何トナレハ約瑟ト馬利亞ニ就テ證スヘキハ此ノ如キ事ニアラサルヘシ若シ或ル女子既ニ懷妊シ而シテ後テ神使來テ汝チカ妊ム所ハ神靈ニ感ソ受孕セシ子ナリト告ケシトキハ其女子ハ直チニ之

ヲ信スヘキ耶又我輩ニ於テモ他ノ未タ嘗テ見サル所ノ女子何ノ時ナルヤ何ノ所ナルヤ一モ之ヲ知ラサル者カ前ノ馬利亞ト同キ異蹟アリシト云フ者アルモ之ヲ信スヘキ者トセン耶假令真ニ有リシ事ト雖先ツ此ノ如キ事ヲ云ヘハ人ノ信ヲ薄フスヘキ事實ナリ何トナレハ全ク為シ難ク有リ難キ事ニ其面ニ欺誑ノ二字ヲ燒印セシカ如キ説ヲ以テ人ヲソ之ヲ信セシムル為メノ主意ニ此ノ如キ談ヲ舉クル者ハ豈ニ奇怪ニソ真理ト兩立シ難キ者ナラスヤ首官

請フ目ヲ閉チテ再思セヨ ○希律カ所有ノ嬰兒
 ノ二歳已下ナル者ヲ殲殺シタルハ獨リ馬太
 傳第二章第二節ニ記セシノミ他ノ三傳ニテハ此事
 ニ就テ何等ノ記載モナシ此殲嬰ノ事若シ實ニ
 有リシトキハ渾テ四傳ノ撰者知ラサル理ナク
 ノ其中ニ於テ一人此事ヲ漏ソ記セサルハ甚
 タ怪ムハキボトナラン馬太傳ノ記者云フ所ニ
 從ヘハ約瑟ト馬利亞ハ神使ノ告ケニ依テ預メ
 此難ヲ避ケンカ為ソニ埃及ニ逃レテ基督ノ殺
 戮セラル、一ヲ免レタリト然ルニ神使何ソ約

翰ノ為メニ告クルヲ忘失セシヤ何トナレハ
 當時約翰モ二歳一ノ恰モ基督ト同齡ナリシカ
 彼レハ故郷ニ留リタリシカ凡逃レシ所ノ基督
 ト同ク成長セリ此ヨリテ見ルトキハ其説自ラ
 詐偽ナルヲ免レス ○四福音傳ノ記者耶蘇刑死
 ノ相狀ヲ記スルハ各一致セス馬太傳ニ由レハ
 耶蘇ハ三時(即チ朝九時)ニ十字架ニ釘セラ
 レタリトシ約翰傳ニ從ヘハ六時(正午十二時
)ニ刑セラレタリト云フ約翰傳ニ從ヘハ耶蘇
ノ罪狀ハ正午マテ未
タ決セサリシ故ニ處刑ハ午後ニ至ルマテ行フ
一ヲ得サリシト云フ馬可傳ニ從ヘハ三時即チ

朝九時ニ刑セラレシト云フ約翰傳第十九章第
十四節ト馬可傳第十五章第二十五節トヲ參攷

ヨ七 四傳ニ記スル所左ノ如キ相違アリ

馬太傳三十七章曰此レ乃チ耶蘇猶太人ハ王ナ

リ

馬可傳十五章曰猶太人ハ王ナリ

路加傳三十八章曰此レ乃チ猶太人ハ王ナリ

約翰傳十九章曰猶太人ハ王拿撒勒ノ人耶蘇

予此等ノ僅ニ數言ノ句ナレバ假令四傳ノ撰者

ハ何人ナルヤ何ノ時代ニ生レシ人ナルヤ審

カニ知ルヲ得サルモ決ソ耶蘇受刑ノ場ニ出會

シタル人ニアラサルヲ斷知スルヲ得タリ當

時其刑場ノ邊リニ在リシト思ハルハ十二門

徒中一ノ彼得アルノミ彼レカ爾チハ耶蘇ノ從

者ナリヤト恠ミ問ハレタル時應ヘシ語ハ即チ

馬太傳第二十六章第七十四節ニ出ツ曰ク彼得

詛シ且誓テ曰ク我レ其人ヲ識ラサルナリト我

輩ハ此言ニ由テ彼得ハ己レカ行事ノ惡キヲ

知リシ者ナルヲ信ス若シ深ク其師ヲ信シ其道

ヲ守ラハ假令如何ナル苦情アリ又之カ為ノ

如何ナル義務アルニ豈我レ其人ヲ識ラスト云

ニ忍ビシヤ ○耶蘇刑架ニ死シタル時ニ就テ其事實ヲ記スル四傳中種々ノ説アリ馬太傳第二十七章第四十五節ニ曰ク日中ヨリ未ハ終リニ至ルマテ遍地晦冥ス（第五十一節）駭慢上ヨリ下ニ至リ裂ケテ二トナリ地震ヒ磐裂ケ墓啓ヒテ既逝ハ聖其身復ク起テ墓ヨリ出ツル者多シ耶蘇甦ルハ後チニ追ヒテ聖京ニ入ル多人之ヲ見ルト馬太傳ノ作者ノ説ク所ハ此ノ如シ然レモ他ノ三傳ノ記スル所ト相支持スルヲナレ

○馬可傳ノ記者耶蘇刑死ノ相狀ヲ記スル中

地震ヒ磐裂ケ墓啓キテ死シタル人ノ起テ歩行セシ等ノ事ヲ載セス路加傳ノ撰者亦此事ヲ嘿セリ約翰傳ノ著者ハ耶蘇受刑ノ狀態ヲ記スル詳細ニシテ其瘞埋ノ事ニ及フト雖モ天地晦冥ソ地球震動シ岩崖崩裂ソ死者ノ復生セシ等ノ奇談ハ一モ之ヲ録セス ○若シ實ニ此等ノ事アリテ而シテ四傳ノ書ノ撰者ハ其事アリシ時ニ存在シ其四傳ヲ撰ヒシハ馬太馬可等ノ四人ノ門徒ナリトセハ他ノ聖靈ニ感シ神ノ嘿示ヲ受ケタルヲナキ尋常ノ歴史家ニテモ此ノ如キ奇事ヲ

録セサル能ハス三傳何ソ此事ヲ漏スノ理アラ
 ン蓋シ此事若シ真ニ有リシ者トモハ其世ニ知
 ラサルニハ其事甚タ布有ニ過キタリ其記ヒサ
 ル事ニソハ極ノテ奇恠ニ過キタル者ナリ若シ
 此等ノ事アリシトキハ十一門徒カ證人ニ立タ
 サルハカラサル者ト思ハル何トナレハ十一門
 徒ハ耶蘇ノ刑場ニ出會セサリシト云フモ是其
 徒弟タル人ニ於テ決シアルハカラサルナレ
 ハナリ而ソ墓啓ケテ死者ノ甦リ邑中ヲ徘徊セ
 シカ如キ事ハ地震ノ如キ者ト類ヒス頗ル恠異

ノ事ナリ地ノ震フハ恆ネニアルハキ者ニテ天
 然ニ起ル者ナレハ何等ノ異蹟トモ云フハカラ
 ス只墓ノ啓ケシ等ハ常理ヲ踰ヘ且其甦リシ入
 ノ去留存亡等ノ履歷ニ關係スル者ナリ若シ其
 甦リシト實ナル片ハ四傳ノ記者共ニ各自ニ競
 テ一箇ノ卓拔セル大主意トソ全章ヲ盈ソ此事
 ヲ記スルノミナラス教徒一般會堂ニ謳フ所ノ
 頌歌ニ造リシボトノ事ナルハシ然ルニ今ハ此
 ニ代フルニ僅々數句ニ盈タサル記載ニソ筆ヲ
 弄セシ者ノ如シ然ルニ及テ某人ハ此ノ如ク云

其婦ハ此ノ如ク陳ヘタリ等ト云フハ屢反覆
 鄭重ニ記載セリ然而ノ其中ニ於テ最モ奇異ナ
 ル前ノ事實ノ如キハ輕々筆ヲ著ケ單ノ横線
 横線ヲ須ユルハ之ヲ以テ抹過シ了レリ○偽
 累スルハ記辨ナリヲ以テ抹過シ了レリ○偽
 言ヲ吐クハ容易キナリト雖モ一旦口ヨリ出
 テ、後チ其言ヲ維持ノ人ヲノ能ク信セシムル
 亦太々難ヒ哉馬太傳ノ撰者ハ何人ノ聖カ世ニ
 復生ノ市上ヲ行歩シ爾後如何ナル事ノ生セシ
 十而ノ之ヲ目撃セシハ何人ナルヤヲ人ニ告ケ
 シナルハシ何トナレハ此撰者ハ自ラ之ヲ見タ

リト云ヘハナリ果ノ然ラハ其聖者ハ墓ヲ出テ
 テ來リタル時裸体ナリシヤ褻服ヲ著ケタリシ
 ヤ男ナリシヤ女ナリシヤ或ハ禮服ヲ著ケシカ
 其衣服ハ何ノ所ヨリ得タルカ又死前ノ住所ニ
 赴キ故トノ夫或ハ故トノ妻ト再婚シ再ヒ私有
 物ヲ收藏シ世間ヨリハ如何カ待遇セラレシヤ
 又已レカ死後人競テ密ニ買却シタル者ヲ官ニ
 訟ヘシカ又ハ地上ニ久ク留住ノ前ノ職業ニ復
 シテ説教セシカ彼レカ再ヒ死シ即チ生ナカラ
 墓ニ歸テ自身ヲ埋メタリシ等ト語ルハ難キ事

ニアラス ○聖者ノ復生セシト云ハ實ニ奇怪ニ
 ノ其人ハ何人ナリシヤ之ヲ知ル人ナシ誰モ此
 事ニ就テ一言ヲモ述フルヲ得サラン或ハ其聖
 者ハ世人ニ對シテ語ルヲ知ラサリシ故若シ其
 聖者ハ前ニ耶蘇ノ事ヲ預言シタル所ノ先知ナ
 ルトキハ多ク言フヘキトアルヘシ而シテ種々ノ
 事ヲ我輩ニ説キ遺ストヲ得ヘシ我輩ハ經典ノ
 注疏ト證徴トヲ古人ノ直説ニ取り耶蘇没後ニ
 於テ舊約時代ノ先知ト面晤スルヲ得タルナラ
 シ假令少ナキモ今我輩カ見ル所ヨリ勝サレル

事多クルハシ若シ其甦リタル聖者カ摩西亞倫
 約書亞撒母耳及ヒ大關ナラハ耶路撒冷ニ在ル
 猶太宗ハ此時已ニ地ヲ掃テ滅セシナラン若シ
 施洗約翰ハ此時甦リタル聖ナリセハ各人之ヲ
 識テ彼レハ他ノ使徒ノ如ク法ヲ説テ名譽ヲ受
 ケシナラン然ルニ一モ此ノ事ナクノ復生シタ
 ル聖者ハ恰モ一夜ニ生シタル約拿シヨナノ菟蘇ノ如
 シ蓋シ朝タヲ待テ萎ミシノミ一ノ能事ナケレ
 ハナリ此記事上ニ向テ論スル所ノ概旨ハ此ノ
 如シ ○復生ノ説ハ受刑ノ談ニ次ク者ナリ是モ

亦四傳各符合セス故ニ各傳ノ撰者中一人モ當
 時刑場ニ出會セシ者ニアラサルヲ徴ス○馬
 太傳第七章ニ耶蘇ノ尸ヲ墓ニ置キシ時猶太人
 彼拉多トニ請フニ守兵ヲ置クヲ以テセシ談ア
 リ是預メ其門徒ノ為メニ尸ヲ盜マル、ヲ恐レ
 テ之ヲ備フナスヲ要スルナリ之ニ依テ墓門
 ヲ掩ホフニ大石ヲ以テ守兵ヲ置ケリト然ル
 ニ餘ノ三傳ニハ此守兵ヲ置クヲ請シテ記セ
 ス又石ヲ墓門ニ轉メ之ヲ掩ヒシ等ノ事ヲモ記
 セス然ルニ予馬太傳ノ此事ノ決局ニ注意スハ

キ所ノ第十二章以下ノ守兵ノ事ヲ記スルニ就
 テ論スヘケレハ次下ニ至テ其誤ヲ駁スルヲ看
 ヲ○馬太傳第二十八章第一節ニ曰ク安息日ハ
 後七日ハ首日黎明ノ時抹太拉ノ馬利亞及ヒ他
 ハ馬利亞其塋ヲ觀シト欲シ來リシ又馬可傳第
 十六章第二節ニ由レハ日出ノ時トス又約翰傳
 第二十章第一節ニハ昧爽トシ又路加傳第二十
 四章第十節ニ從ヘハ墓ニ來リシハ抹太拉ノ馬
 利亞ト約亞拿及ヒ雅各ノ母ノ馬利亞其他ノ數
 婦ナリトシ約翰傳第二十章一節ニハ抹太拉ノ

馬利亞一人トス四傳共ニ符合スルハ此抹太拉ノ馬利亞ノミ予以為ク此抹太拉ノ馬利亞ヲハ記者輩ノ輩ニ知リタル者ナルベシ或ハ此婦ヲ諸藝ニ達シ各邦ニ遊履セシ者ナリトスル説アリ是亦理ナキニアラス○馬太傳第二十八章第二節ニ曰ク倏チ地大ニ震ヒ主ハ使者天ヨリハ下リ前ハテ墓門ノ石ヲ移シ而ハ其上ニ坐スルヲ見ルト然ルニ餘ノ三傳ニハ地ノ震ヒシト神使ノ石ヲ移シテ其上ニ坐シタルヲ記セス馬可傳第十六章第五節ニハ神使墓中ニ在テ坐セ

リト云ヒ路加傳第二十四章第四節ニハ二人ノ神使アツテ立ツト云ヒ約翰傳第二十章第十二節ニ記スル所ニ從ヘハ二人ノ天使坐シ其一人ハ首ニ在リ其一人ハ足ニ在リト云フ○馬太傳第二十八章第六節ニ曰ク墓外ノ石上ニ坐セル二人ノ神使二人ノ馬利亞ニ告ケテ曰ク基督ハ既ニ復生セリ速カニ趨リ報セヨト馬可傳第十六章第五節ニハ諸婦墓門ノ石ノ移動スルヲ見大ニ驚テ墓ニ入り右ニ坐スル神使アリテ耶穌ノ復生シタルヲ告ケタリト云ヒ路加傳第二十

四章第四節ニハ立タル二人ノ神使耶蘇ノ復生ヲ告ケシト云々約翰傳第二十章第十五節ニハ抹大拉ノ馬利亞ニ復生シタリト告ケタルハ耶蘇ニソ其婦ハ耶蘇ト問答シタリト云ヘリ○若シ此四傳ノ撰者裁判官ノ前ニ立テアリトビハ他所ニ在テ其事アリシハ他所ニ在テ其事アリテ證スルニハ他所ニ在テ其事アリ（常倫ニ超踰スル工案ヲ以テ尸骸ノ無カリシヲ證セント計ル者其事アリトビニ似タリ）前ニ擧ケタルカ如ク互ヒニ反對セル言ヲ陳ヘテ其證ヲ立テハ偽詐ノ罰トシテ刑ニ處セラル、トテ免レス

而ノ正ク刑刑ノ律ニ照準スヘキ罪科ナルヘシ然ルニ此書中記スル所ハ皆聖靈ニ感ソ言ヒシトトシ神ノ嘿示シタル語ニソ不刊ニ垂ル、經典ト稱シ世ヲ欺ムクノ大基礎トシタル者ナリ○馬太傳ノ記者ハ此耶蘇刑死復生ノ談ヲ記スル後ナ餘ノ三傳ニテハ見サルヲテ記ス而ソ其談ハ予前ニ論端ヲ開キシ守兵ノ事ノ決局ニ關スル者ナリ即チ第二十八章第十一節ニ曰ク（馬利亞カ石上ニ坐スル神使ト應復セシ後チ）守者（即チ墓ニ置キタル守兵）城ニ入り事ヲ

以テ祭司諸長ニ報ス彼レ長老ト同ク集議シ多
 金ヲ以テ兵ニ予ヘテ曰ク爾チ云フヘシ我レ
 ルトキ其徒夜來テ之ヲ盜ムト尙シ方伯刻彼社ニ
 聞コヘハ我レ之ヲ勸メテ爾チヲソ、虞ナカラシ
 マン兵金ヲ受ケテ囑スル所ハ如クニノ行フ是
 ニ於テ此言徧ネク猶太人中ニ揚カリ今日ニ至
 ルト○此今日ニ至ルト云語ハ馬太ノ記スル所
 トスルカ是馬太ノ記セル者ニ非ル證ナリ而ソ
 此書ハ久シキ後チニ造リシ者ニソ其書中録ス
 ル所モ亦造説ナルヲ證スルニ足レソ何トナ

レハ其今日ニ至ルノ語ハ其事アリシ時ト久ク
 相隔リシ義ヲ含ム若シ我輩カ方今何等ノ事起
 リシニモ此今日ニ至ルマテナル語ヲ以テ其事
 ヲ語ラハ固ヨリ時事ニ合セサル言ナリ故ニ此
 語ニ適當ナル意ヲ與ヘテ解スルニハ少ナキモ
 二三世ヲ經タル者トセサルヲ得ス何トナレハ
 此レ意想ヲ昔時ニ回ヘス語ナルカ故ナリ又此
 談ニ錯失アリ其書ノ作者ノ為ノニハ甚タ好カ
 ラサル者ナリ何トナレハ之ニ由テ其書ノ撰者
 ハ太タ魯鈍ノ人トセサルヲ得サレハナリ何ヲ

カ錯失ト云曰ク此談ハ為シ得ヘキ事ノ理ニ及
セリ何ヲ以テ然カ云フトナラハ曰ク若シ兵卒
カ耶蘇ノ墓ヲ守リシトセハ其眠リタル時ニ基
督ノ尸骸ヲハ盗ミ去ラレタリト云ヲ得ヘシト
雖ハ原ト其尸骸ヲ取り去ラントスルヲ妨クル
為ノノ理ニテ設ケタル守兵ナリ而シテ其守兵カ
眠テ尸ヲ盗マレタルヲ知ラスト云ニアラスヤ
然ラハ其眠リハ墓中ノ尸ヲハ何入ノ盗ミ去リ
シト知覺スルヲモ亦妨クヘシ今ヤ其眠テ知
ラスト云ヒシ守兵カ耶蘇ノ尸ヲ盗ミ去リシハ

其門徒ナリト云ヒタリト記ス若シ之ヲ盗ミシ
人自ラ之ヲ盗ミタルヲ證シ且之ヲ盗ミシ方法
ノ證ヲ示サントスル者ナルカ兎角此ノ如キ證
ハ證トスルニ足ラス思フニ此證ハ新約全書ニ
テハ十分證トスルニ足ル者ナルハシト雖ハ苟
モ真理ニ關係スル者ニ於テハ證トスルニ足ラ
サル者ナリ○予今四傳中ニ於テ此等ノ證ヲ口
實トセシ復生ノ談ヲ論駁シ了レリ更ニ一歩ヲ
進メテ基督カ再ヒ出現セシ事ニ論及セントス
○馬太傳ノ記者ハ墓外ノ石上ニ坐シタル二人

ノ神使カ馬利亞ニ告ケシヲ記セリ即チ第二
十八章第七節ニ曰ク速カニ往テ其徒ニ告ケテ
言ハ彼レ死ソ復生ス先ツ爾加利^{カレト}ニ往ケ彼
コニ在テ之ヲ見ルヲ得ニ我レ曾テ汝^カニ告ク
同キ次ノ二節（即チ八節九節）ニ云フ婦急ニ
墓ヲ離レ懼レ且大ニ喜ヒ趨テ門徒ニ報スト又
第十六節ニ至テ曰ク門徒十有一人加利^{カレト}ニ往
キ耶蘇言フ所ハ山ニ至ル既ニ耶蘇ヲ見テ則チ
之ヲ拜スト○然ルニ約翰傳ノ記者ハ其所載大
ニ前ト異ナリ即チ第二十章第十九節ニ曰ク七

日ハ首日既ニ暮ル門徒猶太人ヲ畏レ所集ハ處
ニ於テ門ヲ閉ツ耶蘇至テ中ニ立ツト○馬可傳
ニ從ヘハ十一門徒加々利ニ往キ耶蘇言フ所ノ
山ニ於テ耶蘇ヲ見シト云フ約翰傳ニ從ヘハ同
時ニ十一門徒ハ耶蘇ノ言フ所ニハアラス他ノ
所ニ聚リ猶太人ヲ畏レテ潛伏セリト云フ○路
加傳ノ記者ハ約翰傳ニ記スル所ニ比スレハ其
馬太傳ノ所載ト反スルノ甚キ事ヲ録セリ何ト
ナレハ其書ニハ明カニ謂テ曰ク十一門徒ハ耶
蘇ノ復生セシ日ノ夜耶路撒冷ニ於テ聚テ語ル

ト路加傳第二十四章第十三節及第三十三節ヲ
 檢セヨ ○今我輩ハ耶蘇ノ門徒ニ汎ク偽リヲ吐
 ク權利ヲ許スニアラサレハ十一門徒中誰モ其
 書ヲ記シ得ヘカラスト云ハサルヲ得ス何トナ
 レハ若レ馬太傳ニ從ヘハ十一門徒ハ耶蘇ノ言
 ニ從テ彼レヲ見ル為メニ加利々ニ往キシハ即
 チ耶蘇ノ復生セレ日ナリト云フ路加ト約翰ハ
 十一門徒中ノ二人ナリトセサルヘカラスト然ル
 ニ路加傳ニハ約翰傳ニテ所謂集會セシト同日
 ニ耶路撒冷ノ家屋ニ聚リシ義ヲ著ハス然ルト

キハ稍約翰傳ト合スルカ如シ故ニ路加約翰ノ
 一傳ニ從ヘハ十一門徒ハ耶路撒冷ニ聚リシト
 ス馬太亦其十一人中ノ一人ナラサルヘカラスト
 然ルニ馬太傳ノ十一人共ニ加利々ノ山ニ陟リ
 タリトスルヲ如何セン知ルヘシ此四傳ニ攀ク
 ル所ノ證ハ互ニ相破摧ソ遂ニ共ニ倒ル、トヲ
 ○馬可傳ノ記者ハ門徒ノ偕モニ加利々ニ往キ
 シ事ニ就テハ一モ記スル者ナシ然ルニ第十六
 章ノ第十二節ニ曰ク厥ハ後ハ門徒二人村ニ適
 ク、時ニ耶蘇容ナラ改メテ顯現ス二人往テ其餘

ハ者ニ告ハレ凡亦信セサルナリト路加傳亦此
 復生ノ日ハ全ク其宵ニ至ルマテ耶蘇ハ明カニ
 門徒ノ前ニ顯現セサリシト云フ而ソ加利ヤノ
 山ニ往キシ説ハ全ク消メ旭下ノ霜トナル路加
 傳第二十四章ニ又云フ十一門徒中ノ二人耶路
 撒冷ヲ去ルト二十五里ナル以馬達ト名クル郷
 ニ往ク耶蘇微服ノ之ト共ニ行キ同ク宿メ麩包
 ヲ食フ二人其耶蘇ナルヲ知ルニ及ヒ忽チ見ヘ
 ス同キ日ノ宵耶路撒冷ニ於テ十一人集リ居シ
 所ニ復々現シタリト○是耶蘇ノ再ヒ顯現シタ

ル證ヲ立ル口實トナス所ノ相反對シタル綻裂
 罅隙ニシテ四傳ニ記スル所ノ符合スル者ハ只再
 ヒ顯現セシトテ鄭重ニ示ス秘密ノミ蓋シ其秘
 密ナルトハ加利ヤノ山ニ於ケルモ耶路撒冷ノ
 戸ヲ閉チタル室ニ於ケルモ共ニ隠レタルトナ
 ルトキハ何タル源由ニ依テ此秘密隱晦ナル事
 ヲ實ナリト許スヘキヤ是又耶蘇ノ復生ヲ世間
 ニ證スルノ口實タル作者自身ノ目的ニ乖ムケ
 リ而シテ之ヲ以テ世ニ弘布シ此事ヲノ確然不動
 ノ事蹟トセント欲セシハ四傳ノ撰者カ騙詐ノ

心術ヲ世ニ公恥スル者ノ如シ故ニ此事ハ四傳ノ記者各自隨意ノ私説ニ屬シ世ノ公論ヲ經ヘキ説ニハアラス○耶蘇ノ頭現セシヲ五百餘人ノ見タリシト云フハ只保羅ノミ五百人中一モ自ラ此事ヲ云ハス故ニ是只一ノ保羅ノ證スルヲナリ況ヤ彼ノ説ニ從フキハ彼ハ其時ニ起リシヲ信セサル者ナルヲヤ保羅ヲ以テ此五百人ニテ耶蘇ヲ見タルヲ録セル達哥林多前書第十五章ノ記者ナリトセハ其擧クル所ノ證ハ裁判官ニ出テ前ニ誓ヒシ所ノ者ハ誤リナリト

誓ヒテ更ムル人ノ證スル言ノ如シ人ハ道理ヲ見ルノ眼アリ而シテ常ニ其説ヲ自由ニ更換スル通義ヲ有スト雖凡此自由ヲ歴史上ノ事實ニ及ホスヲ得ス○予今終リノ耶蘇升天ノ談ニ論及シ來ル上來耶蘇ノ傳記ニ於テハ世人猶太人ノ欺詐ナリヤト種々ノ事蹟ニ就テ疑恠スル者多ケレハ今必ス人ノ疑問ヲ待タサル所ノ實跡ヲ以テセサルヘカラス若シ茲ニ於テ確然タル實跡ヲ以テ耶蘇生涯ノ奇事異蹟ヲ掩ヒ得ハ後ナニ及ンテ其徒弟カカヲ竭メ其事蹟ノ實ナルヲ

證スルノ勞煩ヲ省フキシナラン其然ルヲ得ル
 所以ハ只此升天ノ一舉ニ於テ確爾不動ノ明證
 ヲ衆庶ニ公示スルニ在リ加利々ノ山上ヤ耶路
 撒冷ノ戸ヲ閉チタル室中ニ於テ隱密ニ顯現ソ
 約束即チ諭示セル語ハ縱使有リタルトナリ凡
 公明ノ證トスル能ハス故ニ此升天ノ一段ハ他
 ヲリ疑難シ論駁スル曖昧糺糊ナル事ヲ除キ汎
 ヲ世人ニ公眎スルハ至重至要ノ事ナレハ即チ
 予カ初篇ニモ言フ如ク朝暎ノ東山ニ升ルカ如
 ク或ハ輕氣球ノ雲漢ニ冲ルカ如ク底風目ヲ射

ル出立ニテ末日審判ノ時マテハ久ク爾チ等ニ
 別ルレハ責メテ今世ノ思ヒ出ニ我カ升天ノ光
 景ヲ仰テヨクヨク觀望セヨト天晴レ四海ノ億
 兆ニ公示セスンハアルハカラス假令少ナキモ
 耶蘇ハ刑架ニ死シタリシト風聞アリシ國々ノ
 人民タケニハ一般ニ觀望サセタキトナラスヤ
 ○第一恠ムハキハ馬太傳ノ記者此升天ノ事ニ
 就テ一言ヲ録セス約翰傳亦然リ此事ハ重要ナ
 ル耶蘇宗教ノ眼目ニシテ他ノ事實ヲハ頗ル詳細
 ニ記シタルニ傳ノ撰者カ筆氣ニモ似ス特リ此

事ニ就テ緘嘿セシハ何事ソヤ馬可傳ノ記者ハ
 此事ヲ叙スルニ著意ナキ溢リタル筆氣ヲ帶ヒ
 テ稍造説ノ記載ニ倦ミ或ハ其事ヲ録スルヲ羞
 チタルカ如ク横線註前ニヲ以テ抹過セリ路加
 傳ノ記者モ亦然リ而シテ二傳ノミノ記文ニ於テ
 スラ升天ノ事跡ニ關シテ相符合スル所ヲ見ス馬
 可傳ニ記スルヲ見レハ十一門徒ノ聚リシトニ
 就テ記シ而シテ其十一人集會シタル席ニ耶蘇カ
 頭現シタリト云ヒ然ル後テ記者ハ其集會ノ談
 ヲ終ヘテ自ラ言フ所ノ談ヲ載セ直チニ次下ニ

(學校ノ兒童ノ鈍キ談ヲ終ルカ如ク)云フ然
 ルトキ主言ヒ竟テ遂ニ天ニ升リ上帝ノ右ニ坐
 スト然ルニ路加傳ノ記者ハ耶蘇ハ遙カニ衆ヲ
 率メテ伯大尼ニ至リ衆ニ離レテ升天スト云フ
 因ニ云フ十二門徒ノ一タル猶大カ摩西ニ就テ
 謂ヘルトアリ即チ猶大書第九節ニ曰ク至上天
 使米加勒魔鬼ト摩西ノ屍ヲ争フト我輩ハスヘ
 テ此等ノ造説ヲ信スルトキハ神ノ信重スヘキ
 價直ヲ減却スル者ナリトス○予馬太等ニ就テ
 記シタル四傳ヲ比較スルニ其復生升天ノ際僅

カニ數日ニ過キサルニ其諸般ノ事實ハ共ニ一
耶路撒冷中ニ起シト云ヨリ推考スレハ其四傳
ニ載スル所ノ如ク種々乖謬齟齬スルヲ數日間
ニハ此ノ如ク甚キニ至ラサルヘシ予始メ此事
ヲ考鑿ヤントスル時思フ所ニ較フレハ其乖謬
反對ノ多キ幾倍ナリヤ真ニ驚歎スルニ堪タリ
況ヤ予前篇ヲ撰ミシ時考量セシニ比スレハ更
ニ多クナリ其前篇撰述ノ日ハ獄中ニ在リシ
ナレハ新舊兩約ノミナラス如何ナル書ヲモ得
ル能ハス而ソ身ハ日ニ危機ニ迫ルニ至リ此事

道徳之世

卷五

抄本

ニ就テハ他日ヲ待テ論スルヲ期セシニ如カス
ト思ヒ言ヲ盡サハル意アリシカ故ニ止ムヲ得
スソ簡短ヲ先キトメ著レ了レリ其時予カ引キ
タル語ハ諳記ニ係ル者ノミナリ然レモ皆正ニ
キ論ナリ而メ予カ説バ最モ明確ニソ平素持論
トシタル思想ナリ其思想ハ即チ經典ヲ以テ世
ヲ欺キシ者トシ耶蘇ハ神ノ子ナリトスル談ト
神其怒ヲ慰ムル為メニ基督ノ死シタル事ト奇
怪ナル方法ニ依テ罪ヲ贖フノ説トハ共ニ以テ
全能ノ主ノ榮光ヲ覆蔽スル造説ナリト云フナ

道徳之世

卷五

二八 雜書

リ只真正ノ宗教トスヘキハ異教ナリ其異教ト
 ハ一神ヲ信シ神ノ明德ニ模倣ソ道徳ヲ行フ者
 ヲ指スノ意ナリ故ニ宗教アラシ限リ予カ後來
 ノ幸福ヲ企望スル者ハ只此異教ノミ○却テ説
 々四傳ノ記者ハ誰ナルヤ世ノ相距ルテ遠クソ
 之ヲ確知スルヲ得ヘカラス故ニ永ク之ヲ疑似
 ノ間ニ措カサルヲ得ス然リ而メ我輩ハ疑フ所
 ヲ信スル理ナケレハ記者ノ載セタル所ノ書ニ
 題目セシ人ノ撰述ナルヲ許肯セサルハ難キ
 ニアラス其等ノ傳記ニ於テ互ニ相乖舛スル者

ハ次ニ擧グルニ箇ノ事ヲ證スヘシ○第一ニ此
 記者ハ自ラ録スル所ノ事實ヲ目撃セシ者トス
 ル能ハス若レ然ラズレハ四傳ノ記スル所一様
 ニノ相乖反スル所ナカラン故ニ其傳記ハ其事
 實ニ就テノ證人ナリト思ハル、所ノ十二使徒
 ト稱セシ人ノ中ニテ記セシ者ニアラス○第二
 ニ彼ノ四傳ノ記者ハ如何ナル人ニテモ其互ニ
 關涉支持スル所ノ造説ヲ共ニ相謀テ編成セム
 各自隨意ニ之ヲ作り他ニ傳記ヲ造ル人アリテ
 如何ナルヲ記スルヤハ全ク知ラサル者ナリ

○一ヲ證スルニ準擬スヘキ所ノ證ハ同クニヲ
證スルニモ準擬スヘシ尅實ツ云ハハ其書ハ十
二門徒ノ記セシ者ニアラス又偽作者ノ相會ッ
造リシ者ニモアラスト云フナリ夫ノ聖靈感格
等ノ事ハ全ク疑問外ハ者ナリ何トナレハ自ラ
聖靈ニ感シタリト云テ矛盾乖謬ノ言ヲ累ネ事
實ト妄誕ヲ淆雜スルハ為シ難カラサルヲナル
故ニ固ヨリ嘸々ヲ費サス○若シ四傳ヲ造リシ
四人カ實際ニ耶蘇生涯ノ事ヲ見聞セシトキニ
ハ何ノ時何ノ所ニ某事ノ起シヤ其時ト所ハ四

卷共ニ符合スヘシ然ルニ各傳一ノ事實ニ就テ
各自區々ニ知ル所ヲ記シ相關涉ノ互ニ相支持
スヘキトニ著意セサリシカ故ニ一人ハ某事ハ
山ニ在リト云ヒ他ノ一人ハ都府ニ於ケル室内
ニ起リシト云ヒ又一人ハ白晝ニ某事アリシト
云ヒ他ノ一人ハ宵ニ及テ生セシ事トス然シ其
所ハ何ノ國何ノ所ナルカ其時ハ何ノ時ナリシ
ヤト檢スレハ四傳一樣ナルハキニ今皆之ト相
及セリ○又若シ四傳ノ記者同シ事實ヲ目撃セ
シトキハ其所載互ニ關涉ヲ相成ス所ヲ符合シ

各自互ニ其記スル所ヲ維持スルヲ以テ主要ト
スヘシ然ルニ今記スル所ノ事實ハ一ノ書ニ記
スル所ヲ他ノ書ハ之ニ反對スル文ヲ以テ之ヲ
破ル者アリ或ハ此ニ具ノ彼ニ闕クルアリ之ニ
由テ一モ互ニ相關涉ノ相支持スル者ナレ其證
スル所ノ互ニ乖錯スル者ハ四傳共ニ詐偽ナル
痕跡ヲ露出スル者トナルカ故ニ彼輩カ實事ト
ノ記スル所ノ者一轉ソ其書ノ妄說ナルトヲ證
スル者トナリ了ル謂ワヘシ四傳互ニ相及撥
ノ共ニ相摧碎スル者ナリト故ニ知ル其書ハ十

二門徒中ノ入ノ撰述ニアラス又偽撰者相會シ
相謀テ造リ出セシ者ニモアラサルト然ラハ
則チ其等ノ書ハ如何ノ記載セシ者ナルヤ曰ク
各自隨意ニ捏造シタル小説ナリ○予ハ宗教ニ
固著スル者ニアラス故ニ舊約ニ於ケル如ク新
約ニ於テ預言者ノ言行ヲ記スル者ヲ除クノ外
猶ホ妄詐ト名クルニ足ル者ノ少ナカラサルト
ヲ知ル預言ノ如キハ固ヨリ未來ニ就テ造リタ
ル偽妄ナレハ渾テ他ノ事實ニ準擬スル附會ノ
說ヲ設ケ信ニ輕躁ナル人ノ容易ク之ヲ信スル

ニ乘ノ遂ニ實事ノ如クナリタル者ナリ今其來
 由ヲ推究スルハ難カラサルナリ故ニ我輩ハ
 此種ノ談ニ於テ苟モ其謬妄ヲ辨知スヘキ道理
 ヲ見出し得タル上ハ豈此ノ如クナル人ヲ愚弄
 スル怪説ヲ永々信ヲ世ニ取ルヲ為サシメ
 ンヤ○耶蘇ノ死ノ後チ再ヒ顯現セシ談ハ宗徒
 ノ人ヲ哄騙倡誘スル為ノ潤飾ナリ惟フニ世
 ノ人ノ心ニ絶エス想像スルハ夢幻ト為テ寤
 寐其係ノ身ヲ離レサルカ如ク其想像ヨリ幻出
 シタル形影ヲ認ノテ一タヒ之ヲ見タリト云ヘ

ハ世俗ノ信ニ輕忽ナル者東唱西和ノ妄リニ之
 ヲ信スルカ如シ此ニ類スルヲアルハ獨リ耶蘇
 ノミナラスヨリウス該撒ノ殺サレタル時ニ
 就テモ世ニ行ハレタル談話アリ而シテ此ノ如キ
 談柄ハ渾テ無辜ノ血ヲ流レタル者等ニ由テ生
 スル者ナリ初メ愛慕悲痛ノ餘リヨリ其説ヲ幻
 出シ漸々ニ進張ノ遂ニ最モ確然タル實事ト化
 シ了ルニ及フ一タヒ耶蘇ハ復生セリ某ハ其甦
 靈ヲ見タリト想像幻出ノ形影ヲ認出ノ人ニ語
 レハ然カモ信ニ輕忽ナル徒カ其甦靈ノ止リタ

ル履歴ヲ發見シ而ノ其事アル所以ノ原因如何
 ヲハ究詰セズ之ヲ許スノミナラス反テ已モ
 首唱スル者ナリ然ルニ一人アリテ其事ヲ語ル
 ニ一ノ方ヲ用ヒ又他ノ一人ハ他ノ法ニテ説ク
 遂ニ甦リシ人ト其之ヲ幻見シタル者トノ事ニ
 就テ多少ノ談話ヲ生スル者ナレハ四傳ノ元素
 ハ耶蘇ヲ愛慕悲悼スル想像中ニ在ルカ如シ○
 耶蘇ノ顯現セシ談ハ自ラ實事ト造説ヲ辨スヘ
 ク妙ニ為スヘキトト為スヘカラサルトテ清雜
 ノ説ケリ例セハ路加傳ニ耶蘇ハ條爾トノ來リ

忽焉トソ去レリト云其時ニ於テ戸ヲ閉チテ夢
 裏ノ妄念想像ノ幻影ヲ説テ人ヲ欺カントスル
 カ如ク耶蘇ト行ク語リシ同ク宿ノ晩喰ヲ食ト
 シ云々路加傳第ニ十四章第十三節ヨリ第三十六節ヲ見ヨ其形ヲ見ツヘ
 クノ見ヘス然ルニ此種ノ説ヲナス人ハ其全説
 ニ遍ネク著意ノ造ラサル故ニ往々其綻裂ヲ補
 綴ヤス欠乏ヲ填塞セサル所アリ即チ左ニ一例
 ヲ示サン作者基督ノ復生シタル時墓中ニ其尸
 ヲ裹ミタル帛布ヲ遺セシトテ記セリ路加傳第
 二章第十節而ノ後基督カ門徒ニ顯現シ遂ニ升天セシ

ニ至ルマテヲ記スルニ當テ耶蘇ノ為メニ他ノ衣服ヲ供給スルヲ遺忘セリ將タ耶蘇ハ渾テ衣ル所ノ衣ヲ褫レシ歎悉ク弊臈衣スヘカラサリシヤ抑裸裎ニテ頭現セシヤ以利亞ノ天ニ升ル時ハ列王紀下第ニ章第八節ヨリ第十三節ヲ見ヨ作者其外陰ヲ脱セシムル為ニハ十分注意セリト雖モ火車馬ノ為メニ燒爛セサルヲハ何ノ術ニ由テ得シヤ此事ニ就テハ一語ヲ記セス然レモ強テ其關之ヲ填補スル為メニ想像ヲ用ヒカヲ竭サントスル所ハ予マサニ云フヘシ以利亞ノ衣ハ鯢毛ヲ以

テ製シタル者トセハ燒ケサリンコトモ見ユヘシト○僧侶ノ汎ク歴史ニ目ヲ注カサル者ハ以為ク新約全書ハ耶蘇ノ時世ヨリ撰述シタル書ナリト是彼等カ摩西ノ録スル書ナリト言ヒ傳フル者ヲハ摩西ノ時ヨリ在リシ書トスルニ同シ然レモ其實ハ歷史上ニ於テ考ルニ耶蘇没ノ三百年ヲ經ルマテハ新約全書ト名クル書ハナカリシナリ○當時此書ヲ馬太馬可路加約翰ノ著トシテ顯ハセシ始メハ全ク曖昧ニソ何ノ時代ニ在テ何人ノ撰ナリヤ之ヲ證スヘキ者ナシ而ノ

今馬太傳等ト稱スル如ク他ノ使徒ノ名ヲ以テ
 スルモ異ナルナカラン神ノ西乃山上ニ於テ摩
 西ニ與ヘタルニ碑ニ書キシ法書ハ猶太人ノ所
 有物ナリシト同ク四傳ノ原稿ハ耶蘇宗ノ寺院
 ノ所藏ナリシヤ假令耶蘇ノ寺ニ在リシ者トス
 ルモ然ラサリシ事トスルモ共ニ確知スヘキ證
 ナシ當時印書ノ術未タ發明ナクスヘテ謄寫シ
 タル書ノミ故ニ新約書モ人ノ謄寫ノ世ニ傳ヘ
 タルナリ而シテ其之ヲ寫ストキニハ何人ニテモ
 之ヲ善クスヘク又字句ヲ加減シ轉更スルモ自

在ナレハ新ニ造説ヲ撰入ノ原文ノ如ク寫シタ
 リト云テ人ヲ欺クトモ難カラス故ニ種々隨意
 ニ為シ得タリ全能ノ主ハ其道ヲ人ニ許スニ此
 ノ如キ無慮ノ方法ヲ須ユルハ其大能巨力ト相
 類ヤス我輩カ此書ヲ信シ難シトスルハ真理ニ
 合ナク者ナルヘシ夫人ハ神ノ造出スル所ノ草
 葉一片ト雖モ之ヲ作ルト能ハス之ヲ改ムルト
 能ハス之ヲ偽造スルト能ハス豈啻ニ神ノ嘿示
 タル言ノミハ容易ク之ヲ造リ之ヲ改ムルヲ得
 ハキ者ナリトヤ

本篇ノ初卷ニ於テ予カ私説ニ非ル言アリ即
 テ次下ニ云フ如シ 路加傳ハ唯一ノ投票ノ
 數多キニ由テ採ラレタリ是實説ニソ予カ言
 ヒシトニアラス英吉利或ハ亞米理加ニテ此
 事ヲ知リタル人カ其刊行レタル書ノ脚註ニ
 此事ヲ附録マリ然ルニ印書家爾後此ヲ類聚
 シ一本トソ負ハシムルニ予カ名ヲ以テセリ
 思フニ耶蘇ノ復生ノ升天シタリトスル其間
 僅ニ數日ニテ四人ノ記スル所斯クノ如ク相
 背クホトナル異説アル理ナシ是他ナシ謄寫

ノ原文ヲ添削スルトヲ妨クル所ノ印書ノ術
 行ハレズ永ク時日ヲ經ルニ隨テ種々ノ傳説
 行ハレタルモ亦知ルヘカラス亦書寫ヲ能ク
 スル人ノ多ク寫本ヲ作ルモ容易ナルヘシ然
 ラハ則チ馬太等ノ四傳ヲ原本トシ種々ノ造
 説ヲ附加シタル者ナルヤ知ルヘカラス
 耶蘇ノ没後三百五十年頃ニ前ノ如キ寫本世ニ
 流播シ而シテ耶蘇教ノ典型トナリ俟セテ政事上
 ノ權ヲモ有スル端ヲ發ケリ今日存スル所ノ新
 約全書ハ當時新ニ立タル規制トソ縮ミシ書ナ

リ其之ヲ編ムニ當テ予カ本篇ノ首卷ニ於テ論
 セシ如ク多ク蒐集シタル書中ニ於テ孰レカ神
 ノ嘿示書ナルヤヲ決スルニ猶太ノ僧侶ノ投票
 ヲ用ミタリ○宗旨ハ一般ノ國民ニ由テ設立セ
 ラレタル者ナレハ耶蘇宗ノ目途トスル所ハ權
 威ト利益ヲ占ムルニ在ルカ故ニ彼等カ蒐集シ
 タル書類ハ竊モ奇怪ニノ愕クヘキ者ハ投票ノ
 好キ眼目トセシ者ナルヘシト考フルハ允當ト
 謂ツヘシ而シテ經典ノ信不ハ此投票ヲ信スヘキ
 投票トスルト不トニ在ルノミ何トナレハ所謂

經典ナル書ハ投票者ノ鑒識ニ由テ定メタル者
 ナレハ此投票ヨリ高キ地位ニハ影ヲモ留メサ
 ル者ナレハナリ○然レハ當時耶蘇宗徒中ニ爭
 端ヲ發キシテアリ是只教式教制ニ關スル争ノ
 ミニアラス其經書真偽ノ論ニ涉ルセシトナリ
 グステン及ヒベウスノ諍議ニ於テベウス謂ハ
 ルトアリ曰ク「イハンダリスト」宗ニテハ云フ新
 約ハ十二使徒ノ没後久キヲ經テ其姓名ヲモ知
 ラサル人ノ作リシ者ナリ而シテ世人ノ信從セサ
 ルヲ恐レテ十二使徒ノ名ヲ以テ頒布セリ然ル

ニ其書中乖舛謬錯多キヲ以テ其偽作ナルヲ見
 出スヘシト○又此他新約ノ各書ヲ稱揚ノ神ノ
 嘿示ナリトスルヲ難ノ曰ク汝チカ先輩ハ神ノ
 教ノ中ニ其名ヲ有スト雖凡神ノ教ニ符合セサ
 ル事ヲ多ク攙入セシハ此ノ如シト是我輩カ屢
 新約ノ各書ハ編者ノ自ラ著述シタルニアラス
 又十二門徒ノ作ニモアラサルヲ證セハ敢テ
 奇説トシ驚ク一足サル言ナリ故ニ新約書ノ過
 半ハ傳聞風説ニ基キ而シ其書ハ文意ノ異同多
 クノ相乖反スル者アルニモ關セスノ之ニ題ス

ルニ門徒ノ名ヲ以テセリ此ノ如クスルモ其謬
 誤ト詐偽ハ名ヲ頭サ、ル編者ノ所為ニ歸ス

予ボーラシデルスノ保羅傳ヨリ抄出セシ者
 アリ此人ハオーグスチンカヘウスニ抗ノ著
 セシ書ヲ引キタリ又此人ハ保羅ノ傳中ニ宗
 教ノ歴史及ヒ祖宗ノ記文其他耶蘇宗内ニ流
 行シタル所ノ説ヲ載セタル種々ノ書ヲ集メ
 シ中ヨリ抄録セリ當時モ今我輩カ見ル所ノ
 新約全書ノ神ノ嘿示ト稱セシカマルシヲニ
 ストイハンゲリストハ共ニ耶蘇宗派ノ一ナ

レ氏新約書ハ偽ヲ以テ編成シタル者ナリト
信セリ耶蘇宗ノ中ニテ其始メ數派ニ分レタ
ル「メニチン」ス宗徒モ新約ヲ駁メ偽造ノ書ト
ス而シテ彼等ハ全ク新約ト反對シタル書ヲ以
テ信スハ「キ者」ト許セリ又「シリ」ンタイ「ン」ス派
ノ徒ハ「マル」シヲニス「派」ノ徒ノ如ク十二門徒
ノ所行ヲ善ト許サス又「イン」クラチ「ット」派ノ
徒及ヒ「セ」バニヤ「ン」ス宗徒ハ十二使徒ノ所行
ヲ信セス又保羅ノ書牘ヲモ取ラサリシナリ
ナリ「ツ」ストウ「ム」ハ十二使徒ノ所行ニ就テ説

法ソ曰ク當時四百年前ニ當テ多クノ人民ハ
其書ノ撰者モ又其事ヲモスヘテ知ラスセシ
ト、イリニハ四百年前ノ時代ニ存在セシ人ナ
リ同氏謂ヘル「ア」リ曰ク耶蘇宗ノ諸派ノ如
ク「ガ」アレ「ン」チニア「ン」派ノ人モ新約全書ヲ以
テ意ニ不滿ナル「ト」ト乖謬シタル「ト」ヲ以テ冊
ヲ盈タス者ナリトセリト「イ」ビニ「ソ」トハ最初
ノ耶蘇宗ナレ氏「渾」テ保羅ノ教書ヲ取ラスノ
保羅ハ欺誑者ナリトセリ保羅ハ原「ト」ハ「カ」ン
宗ノ人ニテ「ク」シク耶路撒冷ニ在テ業ヲ營ノ

リ而ノ高僧ノ一女子ニ眷戀シ之ヲ嫉ラシカ
 為ノニ割禮ヲ受ク猶陽皮ヲ割ク太宗ノ教式ナリ然レモ
 其事終ニ成ラズ之ヲ以テ大ニ猶太人ヲ疾視
 シ割禮安息日及ヒ他ノ猶太ノ教規ヲ非斥シ
 其宗徒ト抗論セリ
 看官此等ノ抜抄セシ者ヲ見ルキハ新約ヲ信ス
 ルノ信ヲ磨礪セラレシヲ覺フヘシ而ソ初メ新
 約書ハ神ノ嘿示ナリ聖靈ニ感シタル人ノ作ナ
 リト稱セシ時既ニ偽作也小説也ト非斥セラレ
 タレモ僧徒等ハ虚誕ヲ以テ人ヲ哄騙シ利ヲ釣

ルノ釣トスル為ノニ之ニ抗言スル者ヲ壓抑ノ
 終ニ渾テ經典ヲ批判スルヲ禁遏セリ若シ我
 輩之ヲ信シ而ノ入必ス其書ヲ信スヘシト諷ユ
 ルナラハ（彼等ハ信スルモ信セサルモ）是異
 蹟ノ上ノ異蹟ニシテ奇怪ニ次クノ奇怪ト謂フヘ
 シ然ルニ佛蘭西ノ宗教改革ハ耶蘇宗教ヲ異
 蹟ヲ運用スルヲ禁止セリ是ニ於テ乎耶蘇教
 徒ハ假令聖靈ノ冥助ヲ獲ルモ教制改革ノ起リ
 シ己來一ノ異蹟ヲ施ノ人ヲ儆醒スルヲ能ク
 セリレハ知ンヌ宗教ハ決ノ今日ニ勝ル大作用

ヲ起ス者ニアラサルヲ故ニ我輩ハ預言ノ資
 ケテ假ラスノ渾テ耶蘇宗ニテ古人ノ為セシト
 説ク異蹟ハ偽詐ナルヲ決斷スルニ足レリ○
 耶蘇生存ノ時ト新約書ヲ造リタル時ト其間三
 百年ヲ阻ツト考證セハ我輩ハ歷史上ノ證ヲ
 假ラサルモ尚ホ其書ノ正不ヲ質スニ就テ其甚
 タ確實ナル者ニアラサルヲ見ルヲ得ヘシ和
 墨耳ノ書ノ確タルハ若シ記者ニ關スレハ彼
 レハ古キト一千年ナリト云氏新約ニ比スレハ
 一層信スヘキ者トス其書ニ載スル所ハ非常ナ

ル佳作ノ詩ナリ故ニ此ノ如キ詩ヲ作ル人ハ世
 界僅ニ指ヲ屈スルホトナルヘシ而シテ能ク此ノ
 如キ詩ヲ作ルヘキ材藻アル人ハ豈ニ自身ノ名
 譽ヲ捨テ、故サラニ之ヲ他人ニ與ヘンヤ是ト
 同ク茲ニユリタリト氏ノ書ヲ偽造シ得ル人
 モ亦僅カニ指ヲ屈スヘシ何トナレハ非常ニ熟
 達ナル測量師ニアラサレハ何人モ其書ヲ偽造
 スルヲ能ハサレハナリ○然ルニ新約書中殊ニ
 耶蘇ノ復生ト外天ノ事ニ就テ記シタル者ノ如
 キハ亡靈或ハ入ノ旅行セシ事ヲ記スルノミナ

レハ此ノ如キ書ヲ偽造スルハ尤モ容易ナル下
 ナリ何トナレハ其記スル所ノ文甚ク拙陋ナル
 カ故ニ新約書中ノ妄偽アル和墨耳或ハユーク
 リットトレノ書ニ比スレハ其准ハ百萬ト一ト一當
 ルハジ當時數多ノ僧羅旬語ヲ譯シ又ハ説法セ
 シ者ノ中ニ於テ和墨耳ノ如キ詩材ユークリノ
 トノ如キ學カアル人アリシヤ不ク此二人ノ如
 キハ知識雄偉ナル者ニテ若シ此等ノ人ヲメ新
 約書ヲ編セシ片ニ在ラシメハ其等ノ書ヲ記ス
 ルニ於テ餘材アリ○新約書中ニハ虚誕多キヲ

以テ其力ヲ用ユル所モ亦偽説ヲ文飾スルニ在
 リ人若シ和墨耳或ハユークリトノ名ニ托メ
 撰述セシ者アルヤ曰ク無カルヘシ何トナレハ
 若シ其人ノ材學彼ニ氏ニ匹敵スル所ノ書ヲ造
 ルニ足ラハ自身ノ名ヲ世ニ施スヲ以テ勝レリ
 トス若シ其材學未タニ氏ニ若カサル所ハ其人
 ハ之ヲ贋造スルヲ得ス自ラ厚フスル心ハ二氏
 ト同等ノ材學アル人ヲ妨ケ未熟ハ偽書ノ結果
 ヲ妨ケ共ニ以テ二氏ノ名ヲ假テ利益ヲ得ルヲ
 能ハス然ルニ新約書ノ如キハ満篇主トメカヲ

用ユル所ハ詐偽ノ方術ニ屬ス新約書ハ耶蘇没
 メ二百年乃至三百年ノ後ニ於テ記シタル撰者
 ノ名ナキ歴史タルニ過キス其結果ハ單ニ偽
 妄ニ在リ何トナレハ耶蘇教徒新設ノ教義ヲ布
 宣スル口實トセンテ要スルノ基本ハ只此書
 ニ在リ其信實ト材學トノ如キハ全ク之ヲ度外
 視ス然而ノ人ノ死後ニ稱譽セラレ或ハ刑架ニ
 死セシ人ノ遊魂ノ談ノ如キハ予カ前ニモ論ス
 ルカ如ク尋常ノ事ノミ當時ノ人民ハ此ノ如キ
 人或ハ天使ノ顯現メ入ニ憑リ疫鬼ノ如ク入ヲ

懊惱セシメ而ソ瞥然去テ踪跡ナカリシ等ノ談
 フ信スルテハ慣習俗ヲヲヤメン故ニ（馬可傳十第
 九章節ニ抹太拉ノ馬利亞カ曾テ七鬼ニ憑ラレ
 シ云々）此種ノ談ノ耶蘇ニ根據ノ生シタル者
 カ馬太馬可路加約翰ト題レタル福音四傳ノ基
 礎トナリシテハ驚恠スルニ足ラス各書ノ作者
 其聞キタル如クニ記シ稿成テ後チ其傳ハ聞ク
 十二使徒ノ名ヲ取テ其書ニ題シ人ヲメ耶蘇ノ
 行事ヲ親ク見タル人ノ録セン者ト思ハシメン
 方術ナリ其書中ニ記スル所ヲ彼此參攷セハ同

シ事實ヲ記スルニ相乖反スルヲ以テ其然ル所
 以テ認定スヘシ若シ之ヲ領知セハ全篇スヘテ
 偽作ニテ假令信ニ輕忽ナル入ト雖モ尚ホ信シ
 難キ者ナルヘシ○此新約書中ノ諸書ハ予カ前
 ニモ云ノ如ク半ハ猶太人ノ手ニ出シテハ明カ
 ナリ彼ノ殺戮ヲ好ミ且騙詐ナル摩西及ヒ前預
 言者ト稱スル者ノ記スル所ニ關係メ屢之ニ應
 センメンカ為メニ附會ノ説ヲ捏造ノ新約ト舊
 約トヲ照應ス而シテ宗徒其欺誑ヲ讚揚ノ猶太宗
 ト「バーデ」宗ノ際ニ預言ト稱シ預言者ト呼ビ

シ者ト其比喻ト比喻ニ用ヒシ者ト宗旨ト宗旨
 ト為セシ者トヲ勉メテ考鑿シ而シテ舊キ關鑰ヲ
 新キ錠ニ用ユル如ク己カ一ノ用ントスル目的
 ニ準擬シタリ例ヤハ夏娃ノ蛇ニ誘セラレタル
 愚説ノ如キ人ト蛇ノ相敵視スル自然ノ性ニ一
 説ヲ附會ノ造リタル等即チ是ナリ何トナレハ
 蛇ハ常ホニ人ノ跗ヲ惡ム其蹂躪セララルモ自
 ラ急ニ高處ニ逃ル能ハサル故ナリ而シテ人ハ
 之カ為メニ咀嚙セララルヲ防クニ尤モ急ナル
 カ故ニ見ルニ隨テ直チニ其頭ヲ打ツ此愚狀ヲ

陳ヘシ談ヲ以テ教基トシ又以賽亞カ亞哈士ヲ
 欺クヤ其戰敗ノ時ニ當テ勝ヲ得ヘキ兆トノ處
 女胎孕ノ男子ヲ産ムヘシト云ヘキヲ(以賽
 亞書ノ條下ニ於テ既ニ之ヲ論セリ)轉ノ耶蘇
 ト馬利亞ノトトセント苦心ソ附説ヲ造レリ○
 約拿ト巨魚ノ談ヲモ又證徴即チ比喻トノ解釋
 ヲリ曰ク約拿ハ耶蘇ナリ巨魚ハ墓ナリトス何
 トナレハ曰ク耶蘇宗ノ僧徒即チ作者カ耶蘇ヲ
 ノ自ラ之ヲ言ハ令メタリ馬太傳第十二章ノ第
 四十節ニ曰ク約拿ハ三日三夜巨魚ノ腹ニ在リ

是ハ如クナレハ人子モ亦將サニ三日三夜地中
 ニ在ラントスト然ルニ其記ル所ニ由レハ耶
 蘇カ地中ニ在ルトハ僅ニ一日二夜ナリ何ソ自
 ラ言フ所ニ齟齬スルヤ太夕拙キ記文ナリ墓中
 ニ在ルト七十二時ナルヘキニ凡ソ三十二時ナ
 ルノミ剋實ノ云ヘハ金曜日ノ夜ト土曜日ト土
 曜日ノ夜トナレハナリ是レ耶蘇ハ日曜日ノ晨
 タニ復生シタリト云フカ故ナリ然ラハ則チ贖
 罪ヲ創世記ニ基ケ處女ノ胎孕ヲ以賽亞書ニ附
 會シタル偽妄ヲ察セハ以テ熱信ノ凝塊ヲ破裂

スヘン新約中ノ史記ト預言ノ證兆トニ就テ概
 略ヲ論スルト此ノ如シ○保羅カ書牘ハ其數一
 十有四ニシテ殆ト新約書ノ半ヲ占ム其書ハ名ヲ
 題シタル保羅自身ノ記セシ者ト不トヲ論スル
 ハ緊要ナラス假令其記者ハ何人ナルモ書中記
 スル所ニ由テ其書ノ教義ノ可否得失ヲ決スハ
 キカ故ナリ彼ノ保羅ハ復生ト贖罪ニ就テ談シ
 タル意旨ヲ證スルヲ口實トセシ人ニアラス何
 トナレハ自ラ其理ヲ信セスト云ヘリ○保羅カ
ガマステウス
 大馬色ニ往クトキ使徒行傳第二章ヨ電ニ擊タレテ

地ニ休レタル談々中ニハ驚クヘキトモ異蹟ト
 スヘキトモナシ何トナレハ彼レハ命ヲ以テ遁
 レタリ而シテ三日ノ間目物ヲ視ル能ハス飲食ス
 ル能ハサリシ等ノトハ同行ノ人ヨリ甚シ云々
 ト此ノ如キ形狀ハ有ルヘキトナリ且同行ノ人
 ハ保羅ノ如ク困倒セシト思ハレス何トナレハ
 彼等ハ保羅ヲ扶ケテ大馬色ニ達セシ故ニ或ハ
 彼等ハ保羅ノ如ク斯ル夢ニ類セシ者ヲ見タル
 トヲ口實トセサリシカ○保羅ノ性質ハ其書ニ
 載ル所ニ由レハ頗ル刻薄ニシテ熱信深キ者ナリ

彼レ傳教スルヲヨリ其頑信ノ熾ンナルヲ以テ
 人ヲ殘ヒシ事多ホシ此ノ如キ人ハ決ソ其自ラ
 説ク所ノ道德ヲ躬行心得セシニ非ス其心術ト
 云々動作ト云々共ニ道義ノ外ニ出テタリ○保
 羅カ證スル所ノ教理ハ同体ノ復生ナリ之ヲ以
 テ不刊ノ明證ト以謂ヘリ然リト雖凡其考案ハ
 理ニ乖キ且同体ニテ復生スル者ハ不易ノ證
 トスヘカラス今我輩ヨリ之ヲ見レハ忽チ其
 説ノ變動スヘキ證ヲ見出スヘレ何トナレハ予
 既ニ此体ニテ死シ而ソ再々其死セレ体ヲ以テ

生ルト云ハ予復タ其後々其体ニテ死スル
 アルヲ信ス時疫ハ他ノ病症ニ比スレハ殊ニ我
 人ヲノ死ヲ期セシムルカ如クニ復生ノ談ハ復
 死ノ名ニ及ソ我輩ヲノ能ク永生ヲ期セシムル
 能ハス故ニ不易ノ證トスル教理ハ此復生ノ朦
 朧タル説ヨリ一層高尚ナル考案ヲ立スンハア
 ルヘカラス○天國ニ於テ受クル所ノ形体ハ自
 在ニ之ヲ簡擇シ己ノ欲スル所ニ從テ稟クヘシ
 トセハ今日我人所有ノ形体ニ比スレハ一層美
 麗ニ且輕便ナル軀幹ヲ有スヘシ世界ノ動物

ハ各自稍入類ニ勝サル所アリ鳩或ハ鷲等ヲ除クモ渾テ羽翼アル禽鳥ハ其形チ小ナル者ト雖凡飛翔スルト人類ノ運歩スルニ比スレハ速力ニノ例ヘハ人ノ一時ヲ經テ行クヘキ所ヲ鳥ハ一二分時ニノ容易ニ飛ビ過クルヲ得ヘシ鮮小ナル魚ノ走ルモ亦其体軀ノ大サニ比スレハ運動頗ル輕捷ニノ且自在ナルト遙カニ人ニ勝サレリ疎慵ナル蝸牛ト雖凡尚ホ容易ク地獄ヨリ出ツルヲ得ヘシ只人ハ其力ナクノ永ク硫火ノ慘刑ニ苦ム耶又蜘蛛ハ高キ樹梢ヨリ快適ノ状

ヲナシ地ニ向テ降ル只人ハ其力足ラズ且大ナル事業ヲ為ス能ハス徒ニ天國ノ永生ヲ甘ニスルノミ耶是ニ由テ之ヲ觀レハ死後悉ク復生ノ義人ハ永生ヲ樂ミ不義者ハ永苦ニ沈ムト云々スル保羅ノ臆説ヲ信スル能ハス且其説一應ハ思想ノ高尚ニノ結構ノ廣大ナルカ如クナレ凡至竟甚々猥陋ナル者ト云フヘキニ歸ス○然レ凡是總テ來世ノ事ナレハ現在人ノ知ル所ト殊ニノ未來ニ為スヘキ動作ナリト云ハン然レ凡人ノ精神ハ不易ナル者ナリ各自ノ精神ハ各自

二固有スル者ニシテ今世ニ於テモ精神ノ變セザ
 ルハ必ス同形体ニテ在ル時ニ局テ形体變スレ
 ハ精神亦變スル者ニハアラス○人ハ老少其時
 ニ隨テ其形体ハ同シカラス時ニ從テ容貌ヲ異
 ニス即チ二十年三十年ヲ經レハ其体必ス變セ
 シルヲ得ヌ獨リ精神ハ易ルヲナシ四肢ハ人身
 ノ半ニ居レドモ精神ニ於テ必用ナル者ニアラス
 之ヲ脱シ之ヲ斷シモ固有ノ神魂ハ全クノ缺損
 セス亦此理ヲ以テ推スニ縱使此身体上更ニ羽
 翼其他便利ナル器ヲ具フルモ固有ノ精神ハ之

カ為ノニ其知識ヲ增益セザラン概ノ言ハハ我
 人ノ身体ノ造構ハ幾種ナルヲ知ラサルナリ而
 ノ其固有ノ精識ノ知覺ヲ感發スル所以ノ本ハ
 如何ナル精微ノ機關ナリヤ之ヲ知ル能ハス例
 ハハ彼植物ノ果實ヲ剖キ核ノ濠班ヲ介カテハ
 一點ノ柔軀ナル質アリ其中ニ根芽枝葉ヲ生ス
 ハキ種因アルカ知レ○人ノ思想ハ精神ニ生ス
 其機關寂モ隱微ニノ如何ナル細密ノ動作ニ由
 テ生スルヤ詳ク之ヲ察スヘカラス而シテ此ノ如
 キ腦裏ニ生スル思想感覺ノ不易ナルハ獨一

人類ノ妙用ナリ故ニ之ヲ人間世界ノ物産ト云
 フモ可ナリ ○銅或ハ大理石ヲ以テ雕刻シタル
 像ト雖尺數百年ノ久キヲ經ハ銷磨缺損スル
 ナシト云ヘカラス夫既ニ模造シタル者ハ既ニ
 真ト遠クノ且同人ノ造リシ者ニアラス恰モ畫
 像ヲ以テ真ノ体トスヘカラサルカ如レ然ルニ
 人ノ精神ニ於テハ物ヲ石ニ鑄リ其版銷磨ノ假
 令其版ヲ改メルト千回ニ至ル尺此ノミハ不朽
 ニノ毫モ増減アルトナシ是即チ精神ハ永ク變
 易ナキ作用ヲ具スル故ニ我人ノ認得シ或ハ發

明スヘキ萬物トハ其性質全ク異ナル者ニテ物
 ハ變化スルモ精神ハ變化セズ然ラハ則チ精神
 ヲ生スル者ハ自ラ不易ニ垂ルニ堪タル者ナ
 ラハ之ヲ生スル所以ノ力モ亦不易ナリ蓋シ其
 カハ各自固有ノ精神ト同物ニノ知覺ノ生シ思
 想ノ起ルハ雕像寫影ノ其真体ト關係ナキナ如
 キ者ニ非ルナリ苟モ此說ヲ領センハ宗徒ノ說
 ヲ信スルヨリ容易ナリ而シテ予ハ此說ヲ自信ス
 ルナリ ○固有ノ精神ハ固ヨリ形体ニ屬セサル
 一ハ天地ノ造構ヲ視テ證スルヲ得ヘシ四時交

スト雖氏其四時ヲナス所以ノ理ハ憂セヌ蓋シ
 我入ノ精神ハ其然ル所以ノ證ヲ知ルニ適スル
 カ故ナリ無數ノ動物ニ就テ未來ノ事ヲ教ヘン
 ニハ保羅ノ教義ヲ假ルヲ用ヒス真神早ク既ニ
 善良ニノ不易ナル教ヲ立テタリ動物ノ生々ス
 ル或ハ天ニ翔ルアリ或ハ地ニ走ルアリ或ハ現
 在ニ在リ或ハ未來ニ在テ生存連綿ス此ノ如キ
 ハスヘテ不易ノ理ヲ含クム○動物世界ノ中ニ
 我入ノ視テ寂モ美麗ナル体ヲ有スル者ハ羽翼
 ヲ備フル蟲類ナリ其飛蟲ノ美ナルハ始メ生レ

シヨリノ具フル者ニアラス漸ニ化ノ美ナル形
 体ヲ得ルナリ例ハ遷々トノ行ク所ノ螟蛉ハ
 日ナラスノ堅硬ノ体ト變ノ死シタル如キ形状
 トナリ再ヒ化シ生スルヤ全ク前ノ形チヲ脱シ
 其生力新ニ起リ其生命ハ既ニ盡ク前ト殊ナリ
 然レモ固有ノ知覺ハ形体ト共ニ變スル者ナリ
 ト云フヲハ理解スル能ハス然ラハ則チ何ソ再
 生スルニ同体ヲ以テスルハ我入現存ノ精神ヲ
 變セサル為メニ重要ナリトスルヲ信シ得ン
 ヤ○予本篇ノ上ニ於テ世界ノ締造ヲ以テ神ノ

嘿示ナリト云ヘリ而ノ其天地萬有ト名クル所
 ノ活經典ハ人ニ示スニ某物ハ此ノ如クナルヘ
 シト云フノミナラス尚ホ此ノ如クナリト云實
 證ヲ與フル者ナリ然ルニ耶蘇宗徒ノ將來ヲ指
 示ソ必ス此ノ如クナルヘシト信セシムル事ニ
 於テハ一モ萬象中ニ於テ視ルヲ得ヘキ實事ニ
 基ク所ノ道理ト膺合ソ信スヘキ證驗ナシ何ト
 ナレハ人一タヒ死ノ甦リ今世ヨリモ其形体ヲ
 美麗ニシ且輕便ニスルヲ得ント信スルハ猶ホ
 螟蛉ノ飛蟲ニ化スルト異ナルナレ何ヲ以テ萬

物ノ靈長ナル人ノ人タルニアランヤ○保羅達
 哥林多人前書第十五章ニ疑フヘキヲ記セリ
 即チ耶蘇宗徒ノ死ニ就テ論スルトニ關ス是其
 死シタル時ニ鐘ヲ撞ク死シタル時鐘ヲ撞クニハ耶蘇宗ノ教式ナリニ
 關スル意ニハアラスソ其論スル所解明スヘキ
 者ヲ解明セス又已カ想像ニ屬スル説ヲモ解明
 セス畢竟讀ム者ヲメ何タル意味ヲ領知セシメ
 ントスルヤ其言ニ曰ク凡ソ肉ハ同一ノ肉ニア
 ラス乃チ肉ノ人ニ屬スルアリ獸ニ屬スルアリ
 肉ハ魚ニ屬スルアリ肉ハ鳥ニ屬スル者アリ

十九 然ラハ其意ハ何ソヤ下ニ何ノ解明モナレ
 若シ之ヲ厨人ニ問ハ、必ス言ハンスノ如キ肉
 ノ種類ハアリト又曰ク天ハ物アリ地ハ物アリ
 而ハ天物ハ榮ハ地物ハ榮ニ異ナリト第十節然ラ
 ハ其異トハ何ソヤ何ノ意ナルヤ知ル能ハス蓋
 シ其天物地物ノ異トハ何ノ言ナルヤ其言ノ要
 旨ヲ見ル能ハス又曰ク日ニ一榮アリ月ハ則チ
 別ニ一榮アリ星宿モ亦別ニ一榮アリ全然ラハ
 何ソヤ一星ハ他ノ星ト其距離ノ差ヲ問ハスソ
 特ニ其榮ノ異ナルヲ云フノ外何等ノ意ヲモ知

ル能ハス此ノ如キハ月ハ太陽ハ如クナル光耀
 ナシト云フト其意異ナラス總テ是等ノ文ハ魔
 人ノ吐キレ語ヲ集メシ曖昧タル語類ニ外ナラ
 ス故ニ保羅ハ死後ノ運命ヲ問ハント欲ク來リ
 シ愚蒙ノ人民ヲ却テ疑惑ヲ抱カシムルヲ覺
 ラサルナリ蓋シ僧徒ト魔巫ノ如キハ彼レト同
 商業ノ者ナレハ措テ問ハス○保羅ハ時トノ生
 理學者ノ風ヲ學ヘリ而シ植物ノ理ニ基キ再生
 ノ結構ヲ例證セント欲セリ（達哥林多人前書
 第十五章第三十五節）曰ク愚ナル哉爾ナガ播

ハ所ノ種ハ若シ先キニ死セザレハ則チ生ヲ得
 ス且爾チカ種ニル所ハ者ハ將來ハ体ヲ種ニル
 ニハアラス惟粒而已ト予マサニ之ニ答テ謂ハ
 ントス保羅ヨ愚ナル哉爾チカ播ク所ノ種ハ死
 スルニアラサレハ生セストスルカ蓋シ種子ハ
 地ニ在テ死スル者ニアラス萌芽ノ茁生スルハ
 活キタル種子ニ局ル然レハ比喻ハ意見ニ由テ
 一様ナラスト雖凡種ノ芽ヲ生メ繁茂スルハ之
 ヲ相續ト云ヘクノ再生ト云ノヘキ者ニハアラ
 ス○動物ノ形体ヲ變スルハ植物ノ種ヲ播スル

ノ譬ニ合スヘシト雖凡復生ノ談ニハ的當セス
 是保羅カ喻ヲ取ルノ拙キヲ見ルヘシ○保羅カ
 作りタル者トスル十四ノ書牘ハ彼カ書セシト
 不トニ關セス此各書ハ共ニ教書トスル者ナリ
 然ルニ其書中證スル所ノ教理ハ備足セス其
 教ユル所ノ説ハ彼レ亦自ラ之ヲ信セサル者ナ
 リ故ニ其記者ハ何人ナルヤヲ知ル能ハス而ソ
 新約書ハ滿篇總テ之ト位價ヲ同フスル者ナリ
 即チ此十四教書ニ局ラス馬太馬可路加約翰ノ
 四福音傳ト稱スル教書ハ共ニ耶蘇宗徒カ預言

ヲ口實トシタル説ノ基本ニノ十四教書ハ之ニ
 屬ノ之ト功罪ヲ同フシ之ト得失ヲ共ニセサル
 ヲ得ス何トナレハ耶蘇ノ記傳若シ小説タル者
 ト決スレハ此新約書ヲ神聖ノ書トシ之ニ根柢
 ノ造説シタル教理ハ盡ク霜消氷断セサルヲ得
 ス○予歷史上ニ於テ見タルトアリ僧徒ノ魁首
 タルアテナシユースハ新約編成ノ時代ニ生存
 セシ人ナリ此人ハ年數ヲ考フハ紀元三百七十一年ニ死セリ而ノ彼レ
 教書ト稱スル一篇ヲ著メ後世ニ遺セシ者アリ
 其文齟齬スル所アリト雖凡亦以テ新約全書ヲ

作りシ人ノ性質ヲ知ルニ足レリ而ノ其書ニ由
 テ見ルニ新約書ハ初メ之ヲ作りシ時既ニ世人
 ノ非斥スル所トナレリ且新約書ヲ以テ聖神嘿
 示ノ經典ナリト聲言セシハ即チアテナシユー
 ス等ノ投票ヲ以テ定メタルニ由ル夫レ投票ヲ
 以テ神ノ嘿示ト不トヲ決スルカ如キ其所為ノ
 奇怪ナル實ニ世間相比較スヘキ者ナレ此ノ如
 キ書ヲ信スルハ神ト人ト同一ノ位地ニ立テ、
 之ヲ共ニ崇奉スルト何ソ異ナラン且未來ノ幸
 福ヲ説クニ就テ真ノ基礎アルトナシ然レ凡予

敢テ之ヲ忽率ニ信スル人ヲ咎メス左レ氏此書
ニ記スル所ヲ以テ正真ノ確證トセントスルハ
過謬ト云ハサルヲ得ス我輩ハ決ソ此書中何等
ノ者ニ論ナク予カ意ニ於テ服セサル者ヲハ縱
使神ノ嘿示ナリト驚嚇スルモ枉ケテ之ニ從ハ
ス○予茲ニ於テ經典ノ總論ヲ終ヘントス上來
予カ引キタル舊新二書ハ後人ノ偽作ナリト云
所ノ證ハ皆其二書ヨリ提掲シタル者ナリ而メ
其證ハ兩又ノ劔ノ如ク左右ニ當タリ東西ヲ拂
フ若予カ引ク所ノ經典ハ偽作ナル證磨礪セハ

復經典自ラ誠實ナルヲ證スル所ノ證モ亦銷燼
スハシ何トナレハ予カ駁論スル所ハ經典中ノ
證ヲ以テ論ヲ立ツル者ナレハナリ而シ若シ予
カ立ル所ノ偽造ナルヲ證スルノ證ヲ許サハ
ルヲ得サルハ經典自ラ其誠實ナルヲ證スル
所ノ證ハ以テ證トスルニ足ラサル者トナリ了
ル徹底彼舊新約書ハ其書中語意反對シ且為ス
ハカラサルトハ人ノ為メニ誓ヒ或ハ人ニ代テ
誓フ者ト均クスヘテ偽テ誓ヒ伴テ證セシ者ナ
ル確證ヲ示ス而シ書中苟モ偽ヲ説クハ滿篇

渾テ真正ノ名譽ヲ失墜スル者ナリ○將來ノ世
若シ兩約全書ノ地ニ墜ツルヲアラハ其之ヲメ
然ラシムル者ハ決ソ予カ所為ニアラス予ハ只
其紊亂清雜セシ者ヨリ例證ヲ摘ムテ之ヲ明カ
ニ有官ノ目前ニ掲ケシ功アルノミ而ソ予カ次
下ニ於テ經典ノ可否得失ヲ審判スルカ如ク看
官ヲノニ書ノ真妄ヲ辨知セシメント欲ス

道理之世卷五終

